

税制調査会（第29回総会）終了後の記者会見議事録

日 時：平成28年 1 月 28 日（木）16時48分～

場 所：財務省第 3 特別会議室（本庁舎 4 階）

○記者

会長から最初に何かありますか。

○中里会長

お聞きになっていらしたように、今日は平成28年度の税制改正の内容について、事務方から御報告いただくとともに、昨年まで行ってきた所得税改革の議論に関連して、今後行う予定の海外調査の内容について委員の皆様にご確認いただくとともに、了解していただきました。

海外調査につきましては、本日紙をお配りしましたが、皆様にお示ししたとおり、3月末から4月の初めにかけて、北米チームとヨーロッパチームの二つに分けて、それぞれテーマは若干異なってくると思いますが、しっかりと現地調査を行っていきたいと思います。

皆様御興味があると思いますが、今後のスケジュールについてですが、まず何と言っても、海外調査を行って、その結果の報告を委員の皆様にするところ、ここから再スタートなのではないかと思えます。その後のスケジュールについては、またこれは委員の皆様と御相談しながら考えていくことになるのではないかと。今はそのような感じで考えています。

○記者

ありがとうございます。

海外調査のことなのですが、どの委員がどの国に行くかという詳細はまだこれからということなのでしょうか。

○中里会長

大変失礼しました。

今日四人の方の名前を挙げましたが、日程調整等の関係で、田近委員と岡村委員がヨーロッパ、佐藤委員と私がアメリカ、カナダ。一応そのような分け方で、時期も微妙にずれるかもしれませんが、そのような感じで考えています。

○記者

ありがとうございます。

そうしますと、その後決めていくという形になると、中期答申の見通しは夏ぐらいという話があったのですが、結構ずれ込んだりという可能性があるのでしょうか。

○中里会長

海外調査へ行ったら、できるだけ早く整理、まとめをして、総会にかけるつもりではいますが、現実にはどのくらい時間がかかるかは、行ってみないとわからないところ

もありますし、今の段階ではなかなか予測がつかないです。

○記者

海外調査の件でお問い合わせなのですが、先ほど議論の中でも、現地の生の声をということが非常に多くて、制度面については情報が取れるが、現地のヒアリングのようなものはなかなか難しいと会長もおっしゃっていましたが、税に対しての感覚というものは長年の課題であると思うのですが、諸外国と日本では大きく違う、この辺りをどのように海外調査で反映して見ていくのか。実際にそれがクリアできるものなのかどうか。国民性のようなものに関わる場所であるとは思いますが、その辺りはどのように考えて臨まれるのか。

○中里会長

もちろんどこの国に行っても、例えばそれぞれの国の役所でインタビューすれば、それはもう役所フィルターがある程度かかりますね。大学の先生のところインタビューに行ったこともありますし、そうすると、それはそれでまた研究者としてのフィルターがかかり、ジャーナリストの方にお伺いするようなこともありますし、税理士の先生や弁護士の先生など、そのような方にお伺いしたことも過去にあります。それぞれのフィルターは当然かかるため、どれが実態かということはなかなか難しいですね。ただし、自分が今お尋ねしていることはこのような方だから、このようなレスポンスはあり得るかなということは当然こちらも予想した上でお聞きしますから、そのようなものを総合した上で考えるということなのではないでしょうか。

本当に国民の考え方をということは難しいですね。ですから、税に関する、弁護士の先生や会計士の先生、税理士の先生、税に関するプロフェッショナルの仕事をしている方の意見を国民にかかわって聞くということが一番手っ取り早いのですが、それはそれでまたフィルターがかかってしまいますから。

私個人としては、これは税制調査会とは関係ないことですが、アメリカなりヨーロッパなりの知り合いとインターネット、メール等を通じて、このような問題が最近起こっているようだが、どうだというようなやりとりをなるべく充実させるようにはしていますが、それが本当に国民の意見かと言われたら、やはりバイアスはかかっていますね。

とりあえず、多方面から様々なお考えをお聞きして、その中で考えていくしか方法がないのではないのでしょうか。ジャーナリストの方が各国にいらっしゃいますね。本当はその方々から各社に情報が上がってくるのですが、そのようなものも、私たちがそのような情報も手に入れば一番良いのですが、なかなかそれもそうもいかないでしょうから、個人個人頑張るしかないということでしょうか。

○記者

ありがとうございました。

○中里会長

どうもお世話になりました。

[閉会]